

福祉ロボット検定の特徴と内容

これからの福祉業界を担う!

学生の方へ

福祉・介護について多くの知識を吸収したい、進学・就職の悩みを解消したい勉強中の方

家庭での介護の悩み

介護中の方へ

介護に直面している、介護と自分の生活を両立したい、方法や相談する先がわからない方

施設での現場解決

福祉施設の方へ

介護者、要介護者双方への体の負担の軽減
時間や労働における離職防止など施設内使用を検討されている方

これからの福祉には、人の支援に「ロボットを組み合わせる」ことで、サービスのレベルアップと生産性向上、さらに介護する方・される方の心理的ストレスや体の負担軽減が必要と考えます。「福祉ロボット検定」という学びを通して、介護者を含め、福祉・介護を必要とする人たちのために、福祉ロボットを適切に活用し、人とロボットが一体で支援する新しい福祉の可能性を考える力を修得することができます。



受験申込み時に同時購入となります

福祉ロボット検定 公式テキスト

日進月歩で研究や開発が進んでいるロボットの種類、技術、安全性などの基礎知識だけでなく、ロボットが福祉・介護の場面で活用されていく新しい福祉の広がりが理解できる内容です。今後重要となっていく福祉ロボットの必要性を理解するうえで必読の1冊です。

- 第1章 ロボットとは
- 第2章 ロボットの発達
- 第3章 日本のロボット産業政策の変換
- 第4章 ロボットに関連する技術
- 第5章 ロボットの安全性
- 第6章 介護ロボットの開発状況
- 第7章 在宅介護向けロボット介護機器



受験申込み時に同時購入となります

福祉ロボット検定 公式問題集

公式テキスト同様7章での構成となっています。

<例題>

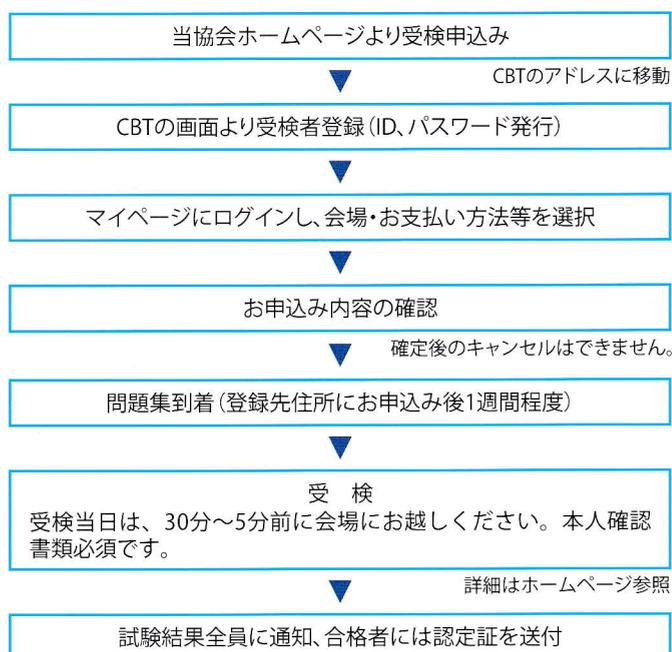
第7章 在宅介護向けロボット介護機器

問題：在宅介護ロボットに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- ①入浴支援では、入浴の際、浴槽から出る際の動作の支援が求められているが、在宅介護向けには一般家庭用の風呂でも使用が可能で、取り外しが簡単なものが望まれている。
- ②認知症の方への見守りでは靴にGPSを装着し、位置情報を入手して被介護者の動向をトレースする仕組みがある。認知症の方の行方不明対策として非常に有効な手段なので、積極的に導入を進めるべきである。
- ③移乗介助では、1人での装着が困難で装着に時間がかかる装着型よりも、楽なリフト式の方が期待されている。

正答：①(問題集には解説が付いています)

■ 申込手順と試験の流れ



■ 試験内容

出題内容	①ロボットとは ②ロボットの発達 ③日本のロボット産業政策の変換 ④ロボットに関連する技術 ⑤ロボットの安全性 ⑥介護ロボットの開発状況 ⑦在宅介護向けロボット介護機器 当協会発刊、公式テキスト・公式問題集の7分野より出題
試験方法	3肢択一のCBT方式
問題数・時間	50問・60分
受験料(税込)	16,560円 (受験料 10,800円、テキスト 3,240円、問題集 2,160円、書籍送料 360円) ※受験料のみ、受験料+テキストor問題集の選択も可
合格基準	原則として、総得点が満点の70%で合格。

詳細はホームページをご覧ください。 <http://robot.fukken.or.jp/>

個人情報とは本受験に関する本人確認や連絡等の目的にのみ使用し、管理いたします。